

平成29年度 学校自己評価システムシート

本庄東高等学校附属中学校

目指す学校像	建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 一貫校である本校の特色を生かした「自らが考え、判断できる、知と心を備えた聡明な人材」の育成
重点目標	1. 知的好奇心を育て、学習習慣を確立し、確かな学力を身につけさせる。 2. 幅広い視野を持ち、生徒一人一人が、自ら職業観を育てる。 3. 礼儀やマナーを大切にし、自他を尊重できる人間関係を促進する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度目標					年度評価 (3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心を高めて、社会の中で有益な思考力を育む教育をさらに実践し、今後予想される入試にも対応できるよう授業実践を行う。 確かな学力を身につけさせるため、授業での学習理解度を自らで確認できるようにさせ、授業・家庭学習での目標を明確にし、目的意識を高めさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業や学習に対して前向きに取り組むことができたか。 学習に対する意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年縦断型の授業で、活動的多元的学習であるA I Lを新たに導入する。 各教科における授業での教科横断的な内容を用いる授業の工夫を更に実践する。 学習状況チェックノートの記入項目の大幅な改訂を行い、生徒の学習活動に対する理解を更に深める。 	<ul style="list-style-type: none"> A I Lを通して、学習に対する積極的な姿勢や意欲、目的意識を持つことができたか。 生徒が学習状況チェックノートを利用して理解不足の点を明確にすることができるよう指導し、改善することができたか。 家庭学習での時間管理や授業準備がしっかりとなされていたか。 	<ul style="list-style-type: none"> A I Lを実践することによって、他学年との協働活動を行うことができた。上級生においては、リーダーシップを取ることにより積極性が見られ、下級生においては、上級生の取り組みから多くを学んでいた。どのように評価するかについて検討すべき点があった。 学習状況を生徒自身が把握し、教師との連携も取ることができ、チェックノートの有効な活用を継続することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> A I Lを今後の授業展開に活かして教科内での活動的学習により一層繋げてゆく。また、今回のA I Lでの活動を経験した上級生がより効果的に協働学習を進められるよう内容改善・評価に努めていく。 学習状況チェックノートの活用から、生徒の意欲を更に高めることができるようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の目的・目標を踏まえ、中学3年間での流れを意識して、各学年ごとの目標設定を明確にしていく。 民間企業による出前授業をさらに有効活用できるように情報の収集を行い、生徒により多くの業種を体験できるようにしていく。 学校全体での出前授業と進路指導講演会を、年に各1回ずつ実施していく。 A I Lの活動を通し、新入試に対応する力および、社会で必要とされる力を養っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 業種の理解を深める取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生では企業の出前授業を活用し、世の中にはどのような仕事・業種があるのかを知る。 2年生では企業訪問を行い、実際の仕事現場を見たり、従業員の話を聞いたりすることで、自身の進路目標を明確化する。 3年生では大学訪問を通して、進路目標達成のための具体的な進路プランを考えていく。 全学年を通して、文化祭の際に職業調べや大学の学問研究学習発表を行い、キャリア教育についてより理解を深めていく。 A I Lを通して、全教科融合学習を実施し、思考力や表現力をつけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの成果を出すために、事前指導と事後指導が適切になされたか。 生徒が目的を十分理解して取り組むことができたか。 積極的で、かつ主体的に取り組むことができたか。 積極的で、かつ主体的に取り組むことができたか。 対話的な深い学びができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年生の企業訪問、大学見学は実際の現場を見たり、声を聞いたり、雰囲気を感じたりし、職業や学問に対する理解が深まった。 学園祭の発表に向けてのグループ学習により、仕事に対する理解が深まり、職業観の育成に繋がった。 学年が上がるにつれ、発表のスキルも向上している様子が感じられた。 新入試に向けてのA I Lの活動は、他学年と協力し合い、対話をしながら多角的に考察、議論し、深い学びを達成できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業や企業訪問、大学見学の内容を次年度の担当者に引き継ぎ、精査しながら選定すべきである。 新規の企業には早めにアプローチを心がけ、内容を確認した上で生徒がより良い選択が出来るようリストを作成する。 A I Lはポスターセッションで完結させたが、口頭発表まで行うことが望ましいと思われる。学園祭の発表内容を検討し、計画や目標・目的を考え直す必要がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> 校内外を問わず、さらなるモラルやマナーの向上を目指し、周囲からも信頼される生徒を育てる。 学校行事を通して、クラス内の団結力や協力の大切さや感性豊かな生徒を育てる。 危険回避がしっかりできる判断力のある生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 信頼される生徒の育成 人間性豊かな生徒の育成 社会性のある生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して定期的に、生徒の現状を把握するために、教員自ら、スクールバスや駅での巡視をする。 必要に応じて、学年集会や全校集会を実施する。 外部講師による注意喚起・啓発をし、危険回避できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に巡視し、生徒のようすを把握し、正しい行動がなされているか確認する。 交通ルール等の社会的なルールがしっかり守れているかどうか。 本校の先生以外から、注意された時にも、注意を素直に受け止めてしっかりした態度がとれるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の生徒だけでなく、様々な地域から進学しているため、すべての現状把握が難しい状況であるが、中学校の全教員が協力して指導を行なった。しかし、電車利用のマナーについて一般の方からの注意のメールを頂いた。また、スクールバスの使用についての指導など改善すべき点も多い。 校外研修・キャリア教育学習や体育祭等で、人に対する思いやり・協力の大切さや譲り合うことを学ぶことができた。しかし、特別なとき以外の普段の生活においては思いやりの心や感謝の心が足りていない点がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 教師の目の届かない場所では、頼りとなるのは、上級生である。上級生が手本となり、リーダーシップを発揮し、後輩の面倒をみられるように指導していくことが重要である。 危険回避の行動を生徒一人一人がしっかりできるように定期的な注意喚起が必要である。 校外でのモラル向上及び改善に向けた努力を学校全体で取り組むこと。